

# コマンドラインインターフェイス(CLI)を使用したCisco Business 350シリーズスイッチのインターネットプロトコル(IP)アドレス設定

## 目的

スイッチは複数のIPアドレスを持つことができます。各IPアドレスは、指定されたインターフェイスまたはポート、リンク集約グループ(LAG)、または仮想ローカルエリアネットワーク(VLAN)に割り当てることができます。デバイスをリモートで管理するには、スイッチにアクセスするためのIPアドレスを定義する必要があります。これにより、Webベースのユーティリティ、Telnet、またはセキュアシェル(SSH)を使用して、デバイスの設定やトラブルシューティングを簡単に行うことができます。

スイッチのIPアドレスは、手動で設定することも、Dynamic Host Configuration Protocol(DHCP)サーバから自動的に受信することもできます。使用可能なDHCPサーバがない場合、スイッチは工場出荷時のデフォルトIPアドレス(192.168.1.254)を使用します。

この記事では、コマンドラインインターフェイス(CLI)を使用してCisco Business 350シリーズスイッチのIPアドレスを設定する方法について説明します。

このドキュメントの用語に慣れていない場合は、[Cisco Business:新用語一覧](#)。

## 該当するデバイス | ソフトウェアバージョン

- CBS350 ([データシート](#)) | 3.0.0.69 ([最新版をダウンロード](#))
- CBS350-2X([データシート](#)) | 3.0.0.69 ([最新版をダウンロード](#))
- CBS350-4X([データシート](#)) | 3.0.0.69 ([最新版をダウンロード](#))

## CLIによるスイッチのIPアドレスの設定

**重要：**スイッチがスタックモードの1つでスタンバイスイッチが存在する場合は、スタックアクティブスイッチオーバー中にネットワークから切断されないように、スタティックIPアドレスを設定することを推奨します。これは、スタンバイスイッチがスタックの制御を行う場合、DHCPを使用すると、スタックの元のアクティブ対応ユニットが受信したIPアドレスとは異なるIPアドレスを受信する可能性があるためです。

### [スタティックIPアドレスの設定](#)

このシナリオでは、スイッチはDHCPサーバを使用せずに設定されています。次の手順に従って、スイッチにスタティックIPアドレスを設定します。

#### 手順 1

シリアルケーブルを使用して、コンピュータをスイッチに直接接続します。

スイッチにSSH接続する場合は、[ここをクリックして、スイッチへのCLIアクセスに関する記事を参照してください。](#)

#### 手順 2

スイッチコンソールにログインします。デフォルトのユーザ名とパスワードはcisco/ciscoです。新しいユーザ名またはパスワードを設定している場合は、クレデンシャルを入力します。

```
User Name:cisco
Password:*****
```

### 手順 3

スイッチの特権EXECモードから、次のように入力してグローバルコンフィギュレーションモードに入ります。

```
CBS350# configure
```

configureコマンドはconfigure terminalと同じです

### 手順 4

グローバルコンフィギュレーションモードで、次のように入力してインターフェイスコンテキストを入力します。

```
CBS350 (config)#interface [interface-id | vlan-id
```

この例では、インターフェイスvlan 1が使用されています。VLAN 1はスイッチのデフォルトVLANです。

### 手順 5

IPアドレスインターフェイス設定コマンドを入力し、次のいずれかを入力して、インターフェイスのIPアドレスを定義します。

- **ip address [ip-address] {{mask | prefix-length}}**:reloadコマンドを使用して、スイッチをただちにリロードします。
- **ip address [ip-address] {{mask | prefix-length}} [default-gateway-ip-address] :reload** {{in hhh:mm | mmm | at hh:mm [day month]}}コマンドを使用して、スイッチのリロードをスケジュールして指定します。

次のオプションがあります。

- **ip address**:IPアドレスを指定します。
- **mask**:IPアドレスのネットワークマスクを指定します。
- **prefix-length**:IPアドレスプレフィクスを構成するビット数を指定します。長さはスラッシュ (/)で始める必要があります。範囲は 8 ~ 30 です。

```
CBS350X(config-if)#ip address 192.168.100.201 255.255.255.0
```

この例では、使用するIPアドレスは192.168.100.201で、マスクは255.255.255.0です。

### 手順 6

(オプション) インターフェイスからIPアドレスを削除するには、次のように入力してIP addressコマンドのno形式を使用します。

```
CBS350 (config-if)#no ip address
```

## ステップ7

endコマンドを入力して、スイッチの特権EXECモードに戻ります。

```
CBS350 (config-if) #end
```

## 手順 8

( オプション ) インターフェイスのIPアドレス設定と情報を表示するには、特権EXECモードで次のコマンドを入力します。

```
CBS350#show ip interface
```

この例では、IPアドレスは192.168.100.201で、タイプはスタティックです。

## 手順 9

( オプション ) 設定をスタートアップコンフィギュレーションファイルに保存するには、次のように入力します。

```
CBS350#copy running-config startup-config
```

## 手順 10

( オプション ) Overwrite file [startup-config]...プロンプトが表示されたら、キーボードでY ( はい ) を押し、N ( いいえ ) を押します。

この例では、Yを押します。

これで、スイッチのスタティックIPアドレス設定が正常に設定されました。

## DHCPによるIPアドレスの設定

このシナリオでは、スイッチはアクティブなDHCPサーバとして機能するルータに接続されています。次の手順に従って、DHCPを使用してスイッチのIPアドレスを設定します。

### 手順 1

シリアルケーブルを使用して、コンピュータをスイッチに直接接続します。

### 手順 2

スイッチコンソールにログインします。デフォルトのユーザ名とパスワードはcisco/ciscoです。新しいユーザ名またはパスワードを設定している場合は、クレデンシャルを入力します。

```
User Name:cisco
Password:*****
```

### 手順 3

スイッチの特権EXECモードから、次のように入力してグローバルコンフィギュレーションモードに入ります。

```
CBS350#configure
```

## 手順 4

グローバルコンフィギュレーションモードで、次のように入力してインターフェイスコンテキストを入力します。

```
CBS350(config)#interface [interface id | vlan-id]
```

この例では、インターフェイスvlan 1が使用されています。VLAN 1はスイッチのデフォルトVLANです。

## 手順 5

インターフェイスコンテキストで、次のように入力して、DHCPサーバからIPアドレスを取得します。

```
CBS350(config-if)#interface [interface id | vlan-id]
```

デバイスが指定されたインターフェイスに設定されたことを示す通知が表示されます。

## 手順 6

( オプション ) インターフェイスからIPアドレスを削除するには、次のように入力してIP address DHCPコマンドのno形式を使用します。

```
CBS350(config-if)#no ip address dhcp
```

## ステップ7

endコマンドを入力して、スイッチの特権EXECモードに戻ります。

```
CBS350(config-if)#end
```

## 手順 8

( オプション ) インターフェイスのIPアドレス設定と情報を表示するには、特権EXECモードで次のコマンドを入力します。

```
CBS350#show ip interface
```

この例では、IPアドレスは192.168.100.103で、タイプはDHCPです。

## 手順 9

( オプション ) DHCPクライアントインターフェイスのIPアドレス設定と情報を表示するには、特権EXECモードで次のコマンドを入力します。

```
CBS350#show ip dhcp client interface
```

## 手順 10

( オプション ) 設定をスタートアップコンフィギュレーションファイルに保存するには、次のように入力します。

```
CBS350#copy running-config startup-config
```

## 手順 11

オプション)Overwrite file [startup-config]..プロンプトが表示されたら、キーボードの[Yes]にYを押して、[No]にNを押します。

この例では、Yを押します。

これで、Cisco Business 350シリーズスイッチのDHCP IPアドレス設定が正常に設定されました。

CBS250またはCBS350スイッチに関する詳細な記事をお探しですか。詳細については、次のリンクを参照してください。

[スタック設定](#) [スタックモードセクタ](#) [スタッキングのガイドライン](#) [IPアドレスの設定](#) [SSHユーザ認証](#) [SSHサーバ認証](#) [パスワードの回復](#) [PuTTYによるCLIへのアクセス](#) [VLAN の作成](#)